

道徳科における「主体的・対話的で深い学び」につながるファシリテーションの工夫

—生徒が問いを持ち続ける授業づくり—

総合支援部小中学校支援課小中第1班 長期研修員 堀内 剛

1 主題設定の理由

平成27年3月に公示された一部改正中学校学習指導要領により、「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」）として位置付けられ、道徳科の目標が、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と改められた。これは、道徳の時間の指導が読み物教材の登場人物の心情理解のみに偏り、「あなたならどのように考え、行動・実践するか」を子供たちに真正面から問うことを避けてきた嫌いがあることを背景としている(注1)。また、道徳科の授業改善について、「特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるもの」と示された(注2)。そして、答えが一つではない道徳的な課題を、一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合える「考え、議論する道徳」を実現することが、「主体的・対話的で深い学び」を実現することになる(注3)。

一方、生徒の実態からは、SNSのやり取り等によって人間関係に悩みを抱え、自分の考えや気持ちを表に出さずに、みんなと同じ行動に流れてしまう姿が見られる。一つの考え方、一つの行動様式しか認めない風潮は、排他性やいじめを招き、生徒の不登校を引き起こしかねないのではないかと考える。人の考えが多様であることを経験により学ぶことは、異なる他者や多様性を認めるといった他者理解を深めることになり、教室における安心感やよりよい学級をつくろうとする態度、更にはよりよい社会をつくっていかうとする内面的資質や自己肯定感の醸成にもつながると考える。そこで、道徳教育において、生徒が自分の考えを自由に表現し、他者と自分との違いに気づき、受容し、自己の人間としての生き方について考えていくことを大切にしたい。そして、道徳科の授業で多様な価値観に触れながら見つけた人間としての生き方についての問いを、今後の生活の中で自問自答できる力を付けさせたい。そのような自問自答できる力を付けていくことが、「主体的・対話的で深い学び」の実現、そして道徳科の目標に迫ることができ、自分の良さや可能性に気づき、自己肯定感が高まり、未来に向かって生きる希望につながっていくと考える。

そして、生徒が持つ本時の内容項目に関わる問いに対し、絶えず主体的に考えることができるよう支援し、教員や生徒相互の関わりを通して問いを持ち続けられるようにする(いわゆるファシリテーション)ためには、道徳科の授業における教員のファシリテーターとしての役割が重要となる。教員のファシリテーションの工夫をすれば、他者との関わりの中で、多様な感じ方や考え方に接し、主体的に考えることができるため、生徒は問いを持ち続ける中で、道徳的価値を多面的・多角的に考え、自分自身との関わりの中で人間としての生き方についての考えを深めることができるようになると思う。

そこで、本研究では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に迫ることを通して、生徒一人一人の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成につながる道徳的な「見方・考え方」を豊かにするために、教員のファシリテーションの工夫により、道徳的な課題を自分の問題と捉え、自己や他者と向き合うことのできる問いを持ち続ける授業づくりに焦点をあてて研究を進める。

2 研究の目的

道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ることを通して、生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成につながる道徳的な「見方・考え方」を豊かにするために、教員のファシリテーションの工夫により、一人一人の生徒が問いを持ち続ける授業を開発する。

3 研究の方法

- (1) 「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」(以下「学習指導要領解説」)や先行研究等から、道徳科で付けたい力、道徳的な「見方・考え方」、本研究で目指す生徒像を明らかにし、教員のファシリテーションの工夫によって、生徒が問いを持ち続けることのできる効果的な学習過程を構想する。
- (2) 教員のファシリテーションの工夫により、生徒が問いを持ち続ける授業を実践する。
- (3) 構想した学習過程により、生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成につながる道徳的な「見方・考え方」が豊かになったかを、授業実践前後の質問紙調査の結果比較や授業での生徒の学びの姿から分析し、その有効性を検証する。

4 研究の内容

- (1) **道徳科で目指す付けたい力と、教員のファシリテーションの工夫により生徒が問いを持ち続ける学習過程**

ア 道徳科で目指す付けたい力と道徳的な「見方・考え方」を基にした生徒像

道徳科は、ねらいに含まれる道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間である(注4)。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるようにすることである(注5)。そのため、生徒が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること(注6)や、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に討論したり書いたりするなどの言語活動を充実すること(注7)が重要となる。

「主体的・対話的で深い学び」の視点は、表1のように示されており、道徳科では表面的な活動で満足せず、内面的な資質・能力の育成につながる学びを重視すべきことが分かる。このような資質・能力は、道徳的な「見方・考え方を豊かにすることにより獲得されるのであって、道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の実現の鍵を握るのが道徳的な「見方・考え方」と言える(注8)。道徳科における「見方・考え方」とは、様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで広い視野から多面的・多角的に捉え、人間としての生き方について考えることである(注9)。道徳科における「見方・考え方を豊かにすることが、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることにつながり、道徳科における評価を、「見方・考え方を視点に行うことから、これらの姿が見られたかどうかで本研究の成果を検証していくこととする。そこで、道徳科における「見方・考え方を基にした目指す生徒像の具体を図1に示す。

表1 「主体的・対話的で深い学び」の視点

主体的な学び	児童生徒が問題意識を持ち、自己を見つめ、道徳的価値を自分自身との関わりで捉え、自己の生き方について考える学習とすることや、各教科で学んだこと、体験したことから道徳的価値に関して考えたことや感じたことを統合させ、自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること。
対話的な学び	子供同士の協働、教員や地域の人の対話、先哲の考え方を手掛かりに考えたり、自分と異なる意見と向かい合い議論すること等を通じ、自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりすること。
深い学び	道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考える学習を通して、様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための問題状況を把握し、適切な行為を主体的に選択し、実践できるような資質・能力を育てる学習とすること。

(中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(平成28年12月)』より抜粋)

自己を見つめる生徒 ○ 様々な道徳的価値について、自分との関わりも含めて理解し、それに基づいて内省する。
物事を広い視野から多面的・多角的に考える生徒 ○ 人としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話し協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考察する。
人間としての生き方についての考えを深める生徒 ○ 人間についての深い理解と、これを鏡として行為の主体としての自己を深く見つめることの接点に、生き方についての深い自覚をする。

図1 「見方・考え方を基にした目指す生徒像」(「学習指導要領解説」を基に筆者作成)

イ 本研究で目指す道徳科における問いを持ち続ける生徒像

O. F. ボルノーは「人間とは問う存在である」と述べている(注10)。問うという行為は人間としてのごく自然な行為であり、学びへの積極的な動機や目的を生み出すものである。また、小野は、「そのつど新たな問いを抱え込み、その問いがふさわしい居場所を見つけて根を張るまでゆっくり付き合い続けてゆく。答えの探求が新たな問いを生み、時に矛盾し合う多様な問題と響き合いながら、終わりなき問いかけが、そのつどの人生の一步を支えていくような教育—いわば《問いに開かれた教育》ないし《問いで開かれる教育》という発想をとった方がいい」と述べている(注11)。

「あなたならどのように考え、行動・実践するか」を真正面から問い、答えが一つではない道徳的な課題を、一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合える「考え、議論する道徳」を実現するためには、多様な価値観に触れな

自己の問いが膨らむ生徒 今までの体験や経験を思い出したり、問題意識や興味関心を持ったりしながら教材と向き合い、自分の感じ方や考え方を積極的に表現しようとする。今までの自分の体験や経験から違和感やずれが生じる葛藤が起こる。必要感を感じる問いを通して、自ら主体的に学んでいく。	「私も同じようなことがあったんだけど…」 「もし、私だったら…」
他者との関わりを大切しながら、考えを深めたり広げたりする生徒 他者の感じ方や考え方に耳を傾け、自分の感じ方や考え方は少し違うところを想像したり、受容・共感しようとする。他者との学びで思考が揺れながら、お互いいろいろな気づきが起こる良さを感じる。	「私は、～と思うんだけど、○○さんはどうしてそんなに思ったのかな？」
自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感できる生徒 多様な感じ方や考え方があることをもう一度自分の中で再確認する。これまでの自分の在り方を振り返り、これからの自分の在り方を考える。学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとめたり、これからの課題や目標について考えたりする。	「今の私は…ただけど、…でありたい」 「今よりも、よりよい自分になりたい」 「将来自分のいいところを生かして生活したい」

図2 問いを持ち続ける生徒像

(図1の道徳的な「見方・考え方を基にした目指す生徒像を基に筆者作成)

から見付けた人間としての生き方についての問いを、今後の生活の中で自問自答できる力、つまり問いを持ち続ける力を付けることが重要となる。問いを持つことによって、新しい経験をこれまでの経験と結び付けながら主体的に考えたいという思いが膨らむ。また、他者との関わりを大切にしながら、考えを深めたり広げたりしていく中で、自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感する。更に、日常生活においても自問自答していくことで、その先で何が分からないのかが見え、次の主体的な学びへとつながっていく。そこで、問いを持ち続けるとは、これまでの自分の在り方を振り返り、人には様々な感じ方や考え方があることを受容、共感し、これからの自分の在り方を自問自答し続けることと位置付けた。更に、問いを持つことにより、これまでの経験や他者との関わりを基に考えを深めたり広げたりできることから、道徳的な「見方・考え方」を豊かにする際、重要となるのは問いの存在であるといえる。つまり、道徳的な「見方、考え方」を豊かにすることと問いを持ち続けることは密接な関係がある。そこで、生徒の変容を見取る際の視点として、図1を基に、道徳科における問いを持ち続ける生徒像を図2のように定義した。

ウ 教員のファシリテーションの工夫により、生徒が問いを持ち続ける学習過程

中野は、「ファシリテーターとは、支援し、促進する。場をつくり、つなぎ、取りもつ。そそのかし、引き出し、待つ。共に在り、問いかけ、まとめる」と述べている(注12)。また、学習指導要領解説には「教員が生徒と共に考える姿勢を大切にすること」と示されている(注13)。表1の視点からも、道徳科においては、生徒一人一人が自分自身の問題と向き合い、教員や生徒相互との対話なども行いつつ、内省し、熟考し、自らの考えを深めていくプロセスが極めて重要であると考える。

表2 ファシリテーターとしての4つの視点

ア	自分自身の問題として捉えることができる「発問の投げ掛け」
イ	生徒の思考を揺さぶる「発言のコーディネート」
ウ	自分自身や他者と向き合える「対話が行われる場での思考の見える化」
エ	自らの成長を実感し、意欲の向上につながる「積極的評価の活用」

そこで、本研究では、教員のファシリテーションの工夫を、「『主体的・対話的で深い学び』の実現のために、授業の中で生徒が自分自身の問題として捉え、自分自身や他者と向き合い、自らの成長を実感していけるように支援をして、問いを持ち続ける学習過程をより一層工夫していくこと」と定義する。そして、生徒一人一人が自分自身の問題と向き合い、教員や生徒相互との対話なども行いつつ、内省し、熟考し、自らの考えを深めていくプロセスの中で、生徒が問いを持ち続けるための有効な手立てとして考えられる教員のファシリテーターとしての視点を、対話の対象や学習

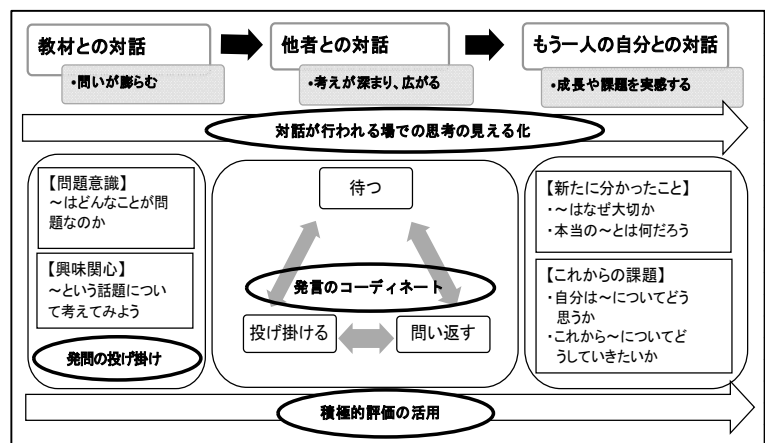


図3 ファシリテーションの工夫により生徒が問いを持ち続ける学習過程

過程を基に4つに絞り、設定した(表2)。これは、生徒が自分なりの納得した感じ方や考え方を持つための「発問の投げ掛け」、対話して自分の考えを少しずつ変えながら実感していくための「発言のコーディネート」「対話が行われ場での思考の見える化」、学んだことから次の問いを生むための「積極的評価の活用」であり、その4つの視点を生徒が問いを持ち続ける学習過程に位置付けた(図3)。

(2) 教員のファシリテーションの工夫により生徒が問いを持ち続ける授業実践

生徒が問いを持ち続けられるようにするため、教員のファシリテーションの工夫における4つの視点を基にして行った授業実践の具体を、以下のア～オに示す。

ア 自分自身の問題として捉えることができる「発問の投げ掛け」

生徒の中から「なぜ」「どうして」と問いが生まれ、「考えたい」という意欲が喚起された上で学習がスタートすることで、生徒の学びは実感へとつながっていく。そこで、「～はどんなことが問題なのか」「～という話題について考えてみよう」といった問題意識や興味関心

が喚起される発問を導入段階で投げ掛けた。これらの発問を投げ掛けることによって、生徒が自分自身の問題として捉え、主体的に学習を進めていくことができるようにした(表3)。

表3 自分自身の問題として捉えることができる「発問の投げ掛け」の実践

NO	教材名	内容項目	発問を設定した意図	設定した発問
I	誰を先に乗せる(NHK for school コロポ部)	思いやり	経験を基に普段誰に思いやりを働かせているかを想起し、思いやりの心は誰に働かせるとよいかを問う。	思いやる相手について考えていこう。
II	子牛の誕生(「心ゆたかに」出版文化)	生命の尊重	食品ロスの資料を提示しながら、食べ物を残すことは本当にいけないことなのか、普段から「食べる」ことをどう思っているのかを問う。	「いただきます」を言う意味は？
III	夢はどこまで追いかけていよう(「NHK for school オンマイウエイ」)	向上心 個性の伸長	今、夢があるか、夢を持つことはいかんなのか、叶わない夢を追うこととは、自分の能力や現実を知らない無謀な挑戦ではないかを問う。	夢はいつまでも追いかけていいの？
IV	銀色のシャープペンシル(「心ゆたかに」出版文化)	人間愛 生きる喜び	「正直者は馬鹿をみる」という言葉を基に、人間は生きていく上で嘘も必要ではないか、自分を守る嘘も時には必要ではないかを問う。	自分の中の良心の声を聞いたことがある？
V	雅彦さんの悩み(「心ゆたかに」出版文化)	集団生活の 向上	「集団生活で困ったこと」を聞いた事前アンケートを基に、気が合わない人と集団生活は可能かを問う。	集団生活をしていく上で大切なことは？
VI	キミはあちゃんの種(「私たちの道徳」文部科学省)	人間愛 生きる喜び	100歳まで生きる時代になると言われる中、「生きる」ことについて考えたことがあるか、「生きる」とはどういうことなのかを問う。	誇りある生き方とはどんな生き方だろう。
VII	一つの運事(「心ゆたかに」出版文化)	公正・公平	いじめの新聞記事を提示し、人間である以上いじめは仕方がないことであるのか、悪いと思っているいじめがなぜ無ならないのかを問う。	いじめがなくなるためにどんなが必要だろうか。
VIII	二通の手紙(「私たちの道徳」文部科学省)	遵法の精神	状況によってはルールを破ることもあるのではないかと問いつながら、身近なルールで要らないと思うものを考える。	ルールやきまりをなぜ守るのだろうか。
IX	みんなと合わせる友情(NHK for school コロポ部)	信頼・友情	「友達で本当に必要なか？」を問いつながら、友達関係でどのようなことで困った経験があるかを問う。	友達にとって私はどんな存在になれるか。
X	3.11塩釜っ子へ～東日本大震災体験文集より～(「心ゆたかに」出版文化)	感謝	普段の生活の中で、どんなことに感謝しているか、何でも感謝する必要があるのだろうかを問う。	自分の中にある大切な「あたりまえ」とは何だろう。

イ 生徒の思考を揺さぶる「発言のコーディネート」

ファシリテーターとして授業を進めていく際に、生徒の思考を揺さぶり、思考を深めるような問い返しをする「発言のコーディネート」が大切となる。そこで、4つに分類した問い返しの発問(表4)を意識して、生徒の思考の流れに沿った発言のコーディネートをを行った。また、生徒の様々な表れを想定し、それらを収束して本時のねらいに迫ることが大切となる。そこで、道徳的価値や生徒の多様な発言を基に、柔軟に授業を進められるように、事前に問い返しのシミュレーションをして授業に臨むことにした(図4)。

表4 問い返しの発問

共感	「～どんな気持ちだろう。」 「～はどんなことを考えているか。」
分析	「～から何がわかるか。」 「なぜ～だろう。」
投影	「～ならどうする。」 「自分なら～」
批判	「～のことをどう思うか。」 「～は本当にそうしてよいか。」

(永田の発問の立ち位置・4区分を基に筆者作成)

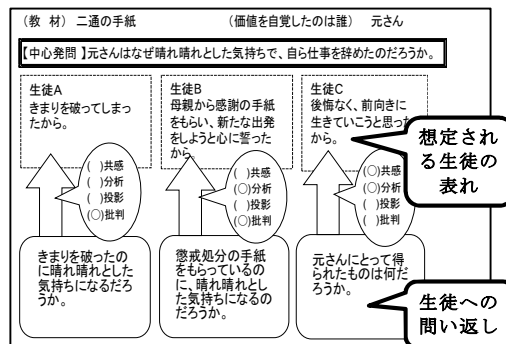


図4 問い返しのシミュレーションツール

ウ 自分自身や他者と向き合える「対話が行われる場での思考の見える化」

対話は問いに対するよりよい考えを求めて、言葉等を用いて互いにやりとりすることである。「教材」との対話で登場人物のフィルターを通して自分自身の問題として捉えたり、「他者」との対話で自分との違いに気づき、受容したり、「もう一人の自分」との対話でこれからの自己の人間としての生き方について考えたりしていく。そこで、これらの対話を効果的に行うために思考の見える化の工夫を行った。その工夫とは、話し合いの内容を言葉や図形を使って視覚的に捉え、学びのプロセスを認識しやすくする環境づくりである。今行われている対話での自分の立ち位置を確認でき、これから向かうべき方向を捉えることができるものである。思考の見える化により、問いに対するそれぞれの考えについての共有化に加え、グループ内での自分の存在価値を強め、主体的参加への促進効果が相乗的に高まると考えた。

(7) 学習形態での思考の見える化の工夫

第1は、ホワイトボードを使用して自分のグループの意見に他のグループの意見を書き加えていく見える化である(図5)。まず、グループ内で、黒色だけを使いホワイトボードに対話内容を書いた。次にワールドカフェ方式で、グループの1人が説明のために残り、他は別のグループの説明を聞きに手分けして回るようにした。グループに残った人は、ホワイトボードの記述を基に説明し、質問に答えた。その後、それぞれ元のグループに戻り、当初のグループでの考えに新たな考えが生まれた場合は、黒以外の色で追加や修正をしながら、ホワイトボード上で再度対話を行った。対話によりグループ相互の違いに気づき、学びの実感を得られるようにするとともに、対話による思考の変化を教員も見取ることができるようにした。

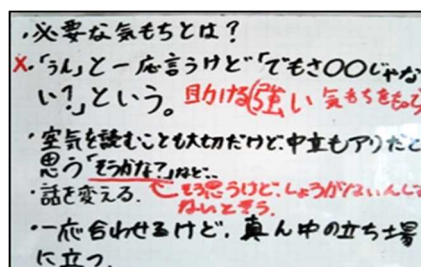


図5 ホワイトボードによる見える化
(内容項目: 友情・信頼、教材: 「みんなと合わせる友情」NK for school「ココロ部」)

第2は、一斉での学習形態でマグネット式のネームプレートと付箋をベン図に貼ることで、一人一人の考えがどの位置にあり、誰と同じで誰と異なるかが明確になる見える化である(図6)。これにより、生徒の主体的な参加を促すとともに、対話を通して新たな考えに気づき、多面的・多角的な考え方を視覚的に確認できるようにした。



図6 ネームプレートによる見える化
(内容項目: 生きる喜び 教材: 「銀色のシャープペンシル」心ゆたかに)

(イ) ワークシートでの思考の見える化の工夫

自分自身や他者と向き合う対話が行われるように、ワークシートでの思考の見える化を工夫した(図7)。導入段階で記入した本時の問いに対する自分の感じ方や考え方と、終末段階での感じ方や考え方を比較させたり、授業中の主体的、対話的な学びを通して深まった自分の感じ方や考え方を基に、新たな学びや気づきを表現させたりすることにより、自己の考えの広がりや深まりを自覚できるようにした。ま

た、話題に対する自分の考えや友達の考えをメモし、見える化することで、当初の自分と友達の感じ方や考え方との相違点を視覚的に確認、比較し、自己のよりよい生き方を探っていけるようにした。

エ 自らの成長を実感し、意欲の向上につながる「積極的評価の活用」

振り返るといふ行為は、ファシリテーションにおいて、教員、生徒双方にとって重要である。成長を受け止めて認め、励ます個人内評価の機会を積極的に持つことによって、今よりも更に一歩踏み出し、前向きになれるよう後押しする未来志向のものにしたいと考える。そして、認め合う関係や高め合う関係へと変えていければ、評価は反省する材料から活用する材料となり、お互いを大きく前進させる推進力となる。中学校において、平成 31 年度から始まる道徳科の評価は避けて通ることのできないものであり、そのためには道徳科における評価の視点「より多面的・多角的な見方へと発展しているか」「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」を意識した授業をしていく必要がある。つまり、道徳科における「見方・考え方」を働かせる授業による生徒の学びの姿が評価につながるものとする。

そこで、生徒自身の主体性を育て、道徳科における「見方・考え方」を働かせる授業をより一層充実させていくために、毎時間のワークシートでの自己評価(図8)と、蓄積したワークシートをポートフォリオとした振り返りを行った。これは、道徳の授業を1時間ごとに終結する

第 回道徳ワークシート 年 組 番 名 前 月 日 ()

資料名

問い

問いに対する今の考え

話し合いの種
～自分で考えたことをメモしよう～

話し合いの芽
～話し合ってからメモしよう～

他者と向き合う対話

今日の授業で()について、自分にプラス・ワン!

評価項目	自分でやる	←	→	自分でやる
1 自分の考えを持ち、授業に積極的に参加できたか。	4	3	2	1
2 友達の考えを聞いて、そうだなと思ったり参考になったりしたものがあったか。	4	3	2	1
3 授業を通して、自分の考えを深めることができたか。	4	3	2	1

図7 ワークシートでの見える化

評価項目	自分でやる	←	→	自分でやる
1 自分の考えを持ち、授業に積極的に参加できたか。	4	3	2	1
2 友達の考えを聞いて、そうだなと思ったり参考になったりしたものがあったか。	4	3	2	1
3 授業を通して、自分の考えを深めることができたか。	4	3	2	1

図8 毎時間行うワークシートによる自己評価

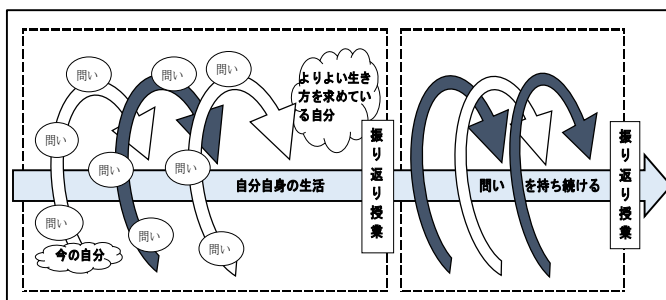


図9 問いを持ち続けることと振り返り授業のイメージ

前期道徳振り返りシート 1年 組 番 名 前

1 どの学習が心に残りましたか。

教材名 理由(話の内容・友達の考え方など)

2 道徳の時間に学んだことが生活の中で生かされたと思った出来事や、こんな時に学んだことを生かしていきたいと思ったこと、自分で自分が「変わったな」と思ったことを振り返ろう。

3 現時点での自分が大切にしたいことは何ですか(「私たちの道徳」P2～3の目次を参考に書きましょう)。

内容項目 理由

4 これからの授業で大切にしていきたいと思ったことは何ですか。

図10 一定期間での振り返りを行う道徳振り返りシート

のではなく、問いを持ち続けた一定の期間で振り返りを行うことにより、普段の生活の中や今後行われる道徳の授業につなげようとする内面的資質を育てるために実施したものである(図9)。また、一定の期間ごとの振り返り授業では、振り返りシート(図10)を基に、自己評価を行う。これにより、自分の良い点や可能性に気づき、自他の成長を認め合いながら、自己肯定感を高めるとともに、今後行われる道徳の授業への意欲を高め、今後の生き方について問う機会とした。また、教員はワークシートや振り返りシートの記述から、「自己を見つめる生徒」「物事を広い視野から多面的・多角的に考える生徒」「人間としての生き方についての考えを深める生徒」に迫っているかどうか、個々の成長の一過程を見取ることや、その見取りにより、ファシリテーションの工夫が「主体的・対話的で深い学び」の実現のために有効であったかを振り返り、その後の授業改善につなげるようにした。

オ ファシリテーション(4つの視点)を意識した授業シートの開発

自己の問いが膨らみ、他者との関わりを大切にしながら、自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感できるような展開を生み出すための授業シートを開発し、問いを持ち続ける授業をシミュレーションできるようにした(図11)。この「問いを持ち続ける授業シート」は、教員として必要なファシリテーションを短時間で押さえることができるため、日常的に使用していくことが可能であり、また教員間でも共有化できる。これは、現在、道徳科の課題として挙げられている量的課題の解決や質的向上にもつなげることができる。と考える。

道徳(1)学年(6)組 問いを持ち続ける授業シート		内容項目 公正・公平										
問いが膨らむ	【ねらい】 2学期に入り、一部の生徒に、狭く排他的な人間関係があり、自分が孤立することを恐れるあまり、不正な行動や差別的な言動が目の前で起こっても、勇気を出して止めることに消極的となってしまっている姿が見られる。そこで、主人公が返答に悩む心情を考えたことを通して、誰に対しても公正・公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める態度を養う。	ファシリテーターとしての工夫 発問の投げ掛け 発言のコーディネート 思考の見える化 積極的評価の活用										
	【導入時のアイデア】 新聞記事を提示しながらいじめはなぜなくなるのだろうかと聞く。 【問い】 いじめがなくなるためにどんな心が必要だろうか。											
考えが深まり広がる	【教材】 一つの返事 (中心場面) 私が思いもよらずAさんについて聞かれた場面 【中心発問】 私はどちらの返事をしただろうか。また、その理由も考えよう。	学習形態での 思考の見える化 中心発問を選択制にすることにより誰もが考えをもちやすくなる。ネームプレートを貼り、友達との違いを明確にすることにより話し合いに必要感を持たせる。										
	<table border="1"> <tr> <th>生徒A</th> <th>生徒B</th> <th>生徒C</th> </tr> <tr> <td>「好き」 小学校の頃と今では、関係ないからかわいそうだから。</td> <td>「嫌い」 自分も嫌われてしまうし嫌だから仲間はずれになりたくないから。</td> <td>「答えない」 巻き込まれたくないから。どっちとも言えない。</td> </tr> <tr> <td>()共感 (○)分析 ()投影 ()批判</td> <td>()共感 ()分析 (○)投影 ()批判</td> <td>(○)共感 (○)分析 ()投影 ()批判</td> </tr> <tr> <td>他の子たちに何か言われなかな。なぜかわいそうかな。</td> <td>もしAさんの立場で考えてみたらどうだろう。この後、Aさんはどうなるだろう。</td> <td>どうやって伝える。このあとAさんはどうなるかな。</td> </tr> </table>		生徒A	生徒B	生徒C	「好き」 小学校の頃と今では、関係ないからかわいそうだから。	「嫌い」 自分も嫌われてしまうし嫌だから仲間はずれになりたくないから。	「答えない」 巻き込まれたくないから。どっちとも言えない。	()共感 (○)分析 ()投影 ()批判	()共感 ()分析 (○)投影 ()批判	(○)共感 (○)分析 ()投影 ()批判	他の子たちに何か言われなかな。なぜかわいそうかな。
生徒A	生徒B	生徒C										
「好き」 小学校の頃と今では、関係ないからかわいそうだから。	「嫌い」 自分も嫌われてしまうし嫌だから仲間はずれになりたくないから。	「答えない」 巻き込まれたくないから。どっちとも言えない。										
()共感 (○)分析 ()投影 ()批判	()共感 ()分析 (○)投影 ()批判	(○)共感 (○)分析 ()投影 ()批判										
他の子たちに何か言われなかな。なぜかわいそうかな。	もしAさんの立場で考えてみたらどうだろう。この後、Aさんはどうなるだろう。	どうやって伝える。このあとAさんはどうなるかな。										
成長や課題を実感する	【生徒の言葉での価値の深まり】 自分がたった1人でも周りに左右されずに公正公平に判断し、行動できるようにすることが大切である。 【今までの自分を振り返る発問】 公正・公平について、これまでの自分を振り返って考えてみよう。 【評価の観点】 ① 主人公に自我関与して、公正・公平について自分の考えをもつ。 ② 話し合いを通して、公正・公平についての考えに多面的・多角的に気付く。 ③ 振り返りを通して、公正・公平を視点に自己を見つめたり、思いや新たな問いが生まれやすくなる。	【生徒の言葉での価値の深まり】 「私たちの道徳」163ページを基に、いじめを解決するために一人一人が、何ができるかを考えることにより余韻を持たせる。										

図11 ファシリテーションを意識した授業シート

(3) 授業実践の分析と検証

授業実践前後の質問紙調査の結果比較や授業での対話記録、1単位時間の授業の振り返り記述、一定の期間を経た授業での振り返り記述などを基にした生徒の学びの姿から、教員のファシリテーションの工夫により、生徒が問いを持ち続ける学習過程により、生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成につながる道徳的な「見方・考え方」が豊かになったかを分析し、その有効性を検証する。

ア 事後質問紙調査から見る道徳科の学習に対する生徒の意識の変容

実践前、実践後の調査結果を比較し、道徳科の授業に対する生徒の意識がどのように変容したのかをまとめた（図12）。

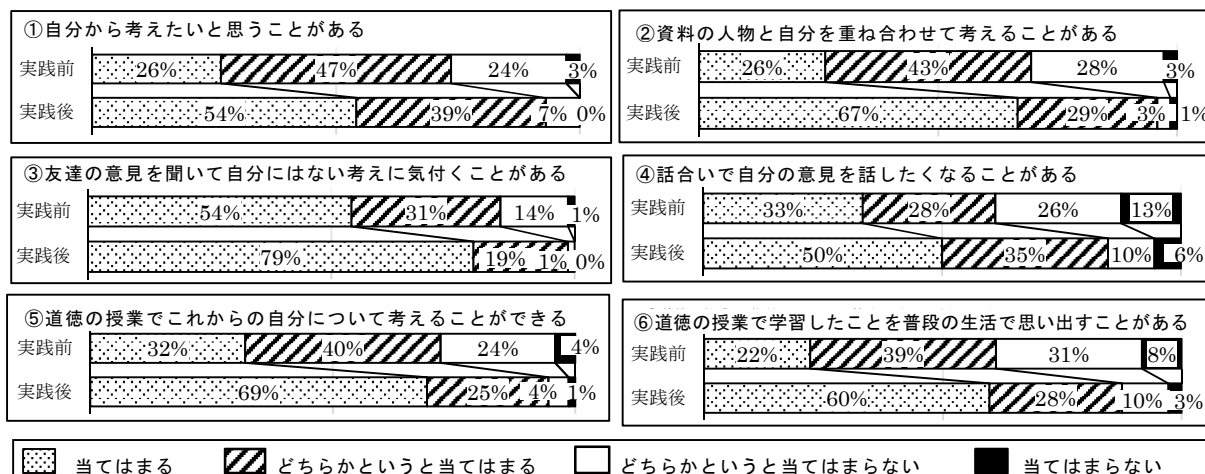


図12 生徒の意識調査（実践前：6月中旬実施、実践後：10月中旬実施 N=72）

回答の分布を実践の前後で比較したところ、実践後、肯定的に回答した生徒が相対的に高く、「当てはまる」と回答した生徒が特に増加し、有意に多かった（直接確率計算、両側検定、 $p < .05$ ）。

図13では肯定方向、否定方向に変化した生徒を比較した。結果は、肯定方向に変化した生徒の人数がいずれの項目でも有意に多かった（直接確率計算、両側検定、 $p < .05$ ）。変化していない生徒についても大半が肯定的に回答していた。

項目	+	-	±	4→4	3→3
①自分から考えたいと思うことがある	36	2	34	(18)	(13)
②資料の人物と自分を重ね合わせて考えることがある	41	3	28	(17)	(9)
③友達の見聞を聞いて、自分にはない考えに気付くことがある	27	6	39	(33)	(5)
④話し合いで、自分の意見を話したくなることもある	33	3	36	(21)	(8)
⑤道徳の授業で、これからの自分について考えることができる	38	1	33	(23)	(8)
⑥道徳の授業で学習したことを、普段の生活で思い出すことがある	38	4	30	(14)	(10)

図13 生徒の意識の変容

これらの要因としては、ファシリテーションの工夫として、自分自身の問題として捉えることができる「発問の投げ掛け」によって、生徒は自己の問いが膨らみ、「自分から考えたい」「教材と自分自身を重ね合わせて考える」という意識になったと考える。また、思考を揺さぶる「発言のコーディネート」と自分自身や他者と向き合える「対話が行われる場での思考の見える化」によって、他者と考えを深めたり広げたりすることができ、「友達の見聞を聞いて自分にはない考えに気付く」「自分の意見を話したい」という意識につながったと考える。更に、「積極的評価の活用」によって、自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感することができ、「これからの自分について考える」「普段の生活で思い出す」という意識につながったと考える。これらの理由から、図2で示した問いを持ち続ける生徒像に迫ることができたと考える。

表5の実践後の生徒意識調査の記述（あ）からは、今までの自分の体験や経験から違和感やずれが生じ、葛藤しながら、主体的に学んでいる表れが見られた。このことから、自分自身の問題として捉えることができる「発問の投げ掛け」による主体的な

学びを通して、自己の問いが膨らんでいることを実感していると考える。(い)からは、互いに新たな気づきが起こる良さを感じている表れが見られた。このことから、思考を揺さぶる「発言のコーディネート」、自分自身や他者と向き合える「対話が行われる場での思考の見える化」による対話的な学びを通して、他者との関わりを大切にしながら、考えを深め

たり広げたりしていると考え。(う)からは、これまでの自分の在り方を振り返り、これからの自分の在り方を考える深い学びが行われている表れが見られた。このことから、自らの成長を実感し、意欲の向上につながる「積極的評価の活用」によって、自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感していると考え。また、自己肯定感の高まりも併せて見られた。これらの理由から、図2で示した問いを持ち続ける生徒像に迫ることができたと考える。

イ 生徒の対話から見取ることのできる変容

表6は、本実践におけるグループでの対話記録である。「あなたが主人公の立場ならどのように行動するか」という自分自身の問題として捉えるための中心発問を受けて、生徒は集団生活をする上で何が大切かを考えた。C4の「そんなこと問題ではない」、C2の「本当に自分の立場だったらどうするか」という言葉からは、導入段階の「発問の投げ掛け」により、集団生活への問題意識や興味関心が喚起され、自己の問いが膨らんでいると考える。また、C2の「分かんなくなってきた」の言葉からは、今までの自分の体験や経験を基に、学級を優先すべきか部活動を優先すべきかを考える際の「対話が行われる場での思考の見える

表5 実践後の生徒意識調査の自由記述から

(あ)	自己の「問い」が膨らむ生徒	<input type="checkbox"/> 道徳は自分がこの立場になったらどうするかを考えられる。 <input type="checkbox"/> 本気で自分と向き合える。 <input type="checkbox"/> 道徳の授業は、よく人間関係のお話とかが出てきて、もしそこに自分がいたら、どうなんだろうかと思うこともある。
(い)	他者との関わりを大切にしながら、考えを深めたり広げたりする生徒	<input type="checkbox"/> 道徳をやっていると感じていることは、自分と相手の話が違うので、すぐためになると思いました。 <input type="checkbox"/> 自分が考えていることと違う意見を聞くことができるから、自分の行動をもう一度考えることができる。 <input type="checkbox"/> 自分の意見と友達の見解が違うし、それを話し合うのが楽しい。
(う)	自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感できる生徒	<input type="checkbox"/> 普段の生活を見直し、今の自分と見比べてみて、自分がどうであるかがしかり分かる。自分のいいところや悪いところ分かるのでいいと思いました。 <input type="checkbox"/> 道徳の授業で学習したことを今までの自分と照らし合わせて反省するように心掛けています。道徳は必要ないと思ってしまうことがあったけど、悩みごとなど道徳の授業で学んだことを思い出して解決しようと思っています。だから本当に道徳は私たち学生に一番必要な教科だと感じます。 <input type="checkbox"/> 自分の将来のためにもなるし、道徳の授業をすると皆からのいじめも無くなると思う。

表6 グループでの対話記録

<p>C2:日直優先したら部活できなくなるよ。 C3:私は閉めずに帰る。自分が忘れたんじゃない。自分のせいじゃん。だからもう一回日直をやるべき。 C1:閉めに行かないんだあ。 C3:部活停止になって、大会前で練習できなくなったりしたら嫌だから。副キャプテンとしてのプライドもある。それに部活停止になるといじめられるかも。 C1:だからといって学級を見捨てるわけにもいかない。 C3:結局やり直せばいいんでしょ。 C4:そんな考え方は甘いよ。 C2:日直をやり直すの、めんどくさいよね。 C4:そんなこと問題ではないよ。 C3:学級の人にだったら話をすれば分かってもらえるよ。 C4:えー、学級の方が分かってもらえないよ。 C3:日直は個人だけの問題、みんなにそんなに迷惑がかからないよ。学級はやり直していいよ。部活はみんなに迷惑がかかるんだよ。大会も近いし。 C1:雨降ってんだよ。教室がびしょびしょになって、朝、大変なことになる。学級のみんなにも迷惑がかかるよ。 C3:だったら先生に事情を説明したら？ C2:放送をした先生に声を掛けて、「窓閉め、よろしくお願いします」と言おう。それか、忘れ物を取り来たと言って、窓を閉めに行けばいい。 C4:嘘はよくない。私だったら先生に理由を説明できるから怒られるかもしれないけど、言いにいくかも。次の日に窓を開けっぱなしにして怒られるより全然いいよ。 C1:まあ、もし戻らなったら先生に一言いってもいいかも。忘れ物でもいいし、日直の仕事ですと言えばいい気がする。 C4:ねえ、話し合いをして自分の中で考えが変わったことある？ C2:分かんなくなってきたなあ。本当に自分の立場だったらどうするかな。 T:雅彦さんはなんで閉めに戻ったんだろう。 C4:自分は日直の仕事を優先すべきだという気持ちが強くなってきた。これは自分だけに与えられた仕事だし、忘れた自分が悪いからこそ、部活停止になっても責任を果たしていくべきかな。 C3:実際の状況に置かれたら本当に困るよね。 C2:学校や学級の責任を果たさない人が増えたらどんどん崩れて、困る人が増えると思ったんじゃない。</p>

(内容項目：集団生活の向上 教材：「雅彦さんの悩み」心ゆたか(こ)

化」により、違和感やずれが生じ、更に自己の問いが膨らんでいると考える。「与えられた仕事」「忘れた自分が悪いからこそ」といった言葉からは、生徒の思考が揺さぶられ、自分にとって都合のいい解決よりも質の高い「集団の一員としての意識」の大切さに気付くことができたと考える。これは、教員から再度、「発言のコーディネート」として、教材の登場人物の気持ちを問い返したことによるものである。同様に、C3は自分自身の問題としての意識が更に深まり、C2は「部活優先」「めんどくさい」という安易な考えから、C4の気付きなどの他者との対話を通して、共感しようと思考が揺れ、仕事を果たさないと集団として向上していかないという考えの深まりがあったことが分かる。これらの理由から、図2で示した問いを持ち続ける生徒像に迫ることができたと考える。

ウ 導入段階と終末段階での生徒の学びの変容

表7 教員の期待する考えの要素と、導入段階と終末段階での記述の変容

問い	教員の期待する考えの要素	導入段階	終末段階
夢はいつまでも追いかけていいのか？	<ul style="list-style-type: none"> 悔いが残らないように精一杯努力する大切さに気付く。 自分が良いと思っていることを生かせる人生を送る大切さに気付く。 自分自身との関わりの中で希望や勇気、強い意志について考えを深めている。 一面的な見方から多面的、多角的な見方へと発展させている。 	<p>自分がもう無理だと思うまで夢を追いたい。</p> <p>夢を諦めることも、どんな夢を持つのかも、全て自分次第だと思います。</p>	<p>私は将来保育士になりたいと思っています。登場人物の沢田さんみたいにあきらめないで追い続けたいです。いざ、無理だと思う時は仕方がないけれど、<u>保育士になりたいという気持ちは強いので、あきらめたくないからこそ、今からできることを努力したいです。</u></p> <p>自分が一度持った夢を諦めることはつらいことだと思います。簡単に諦めないためにもできる限り努力をして、<u>自分のできることを精一杯やるのが、まず大事</u>だと思います。無理だと感じたら、笑顔で「大丈夫」と自分に言い聞かせていくと自然と大丈夫な気がします。私は自分で無理だと感じたら、<u>簡単に諦めないで家族に相談していきたいです。誰か家族や友達に夢を諦めかけた時、自分がその人を励ますことができるそんな人に私はなりたいです。</u></p>
友達にとって私はどんな存在になればいい？	<ul style="list-style-type: none"> 共に学び合い、高め合う関係をつくっていくとすることよさに気付く。 友情への気持ちと実行することのギャップやその理由について考えている。 自分自身との関わりの中で友情や信頼について深めている。 一面的な見方から多面的、多角的な見方へと発展させている。 	<p>相手を大切にしていると 思われる存在になりたいです。</p> <p>一緒にいて楽しいと思ってくれる存在になりたいです。</p>	<p>最初は正直、相手が嫌な気持ちにならないようにすればいいことだけしか思い浮かばなかったけれど、友達と話合っているうちに、<u>相手に合わせるだけではなく「ダメなことはダメ」と言える強い気持ち</u>が大切であることも気付きました。</p> <p>自分が仲間外れにされるかもしれないと思っても、<u>誰かが困っていたら重責を出してその人を助けてあげられる人になりたい</u>と思います。時にはみんなに合わせた方が得する時もあるけど、<u>相手にとって本当にためになるのかをしっかりと考える</u>ことが大切だと思いました。</p>
いじめがなくなるためにどんな心が必要だろうか？	<ul style="list-style-type: none"> 誰に対しても公正公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めるよさに気付く。 公正公平への気持ちと実行することのギャップやその理由について考えている。 自分自身との関わりの中で公正・公平について考えを深めている。 一面的な見方から多面的、多角的な見方へと発展させている。 	<p>相手の気持ちになって考える心を持つべいいと思います。</p> <p>相手の気持ちと場の空気を読める心を持つことができればいじめがなくなると思います。</p>	<p>私も中学校に入ってから部活の友達に「あの子のこと、好き？」と聞かれたことがありました。その時、私は「好きだよ」と答えましたが、内心ドキドキしていました。けれど、それきりその質問をされることはなくなりました。それでよかったのか正直悩んでいましたが、今日の授業で、<u>勇気を持って正しい自分の気持ちを出す</u>ことが良かったと思うことができました。</p> <p>その子がいじめられないようにするためには、自分がどのようなことをすればいいかと、<u>もし現実が起こったら私はすぐに答えられないかもしれませんが、「助けたい」という気持ちはずっとあるんだけど、いざとなったら迷ってしまうと思う。それは自分が傷ついてしまい、自分を優先させてしまっているからだと思います。けれども、そんな時こそ冷静に、その子を助けてあげられるような人になりたいです。</u></p>

表7は、生徒一人一人にとって深い学びとなっていたかを捉えるために、1つの授業の導入段階と終末段階で同じ問いについて考えた際の記述変化をまとめたものの一部である。本時のねらいを押さえた上で、生徒の表れを捉え、考えの変容を追っていくことで、変容した理由を捉えることができた。また、生徒自身にとっても、ワークシートでの思考の見える化により、自己の考えの変容を捉えることができ、今よりも前向きになれるように自己を振り返る「積極的評価の活用」によって、自らの成長や課題などを実感することができた。

この結果を基に、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたファシリテーションの工夫を見直し、授業改善につなげることができた。これらの理由から、図2で示した問いを持ち続ける生徒像に迫ることができたと考える。

エ 生徒の振り返り記述による生徒の学びの表れ

表8 1つの授業における振り返り記述と、それを基にした一定期間を振り返っての記述

内容項目	振り返り記述
I 思いやり	これから人を思いやる時には身近だからとか仲がよいだからという理由だけでなく、しっかり人の意見を聞いてあげるといことも大切にしていきたいと思った。
II 生命の尊重	食べることはあたりまえだと思っていた。特に朝は忙しくて「いただきます」とさえ言っていなかった。「いただきます」という意味をよく考えてみると、「命をいただく、そして成長する」ということではないかと思う。「いただきます」を心からちゃんと言いたい。
III 向上心 個性の伸長	夢は追い続けることは年もあるし限界もある。そこには家族の思いもあるし、自分自身も苦しくなるから私だったら諦めてしまってもいい。でも、夢を追い続けるあきらめない姿勢はカッコいいと思う。
IV 人間愛 生きる喜び	良心がない人なんていないと思う。後悔しないように自分の心をコントロールしなければならないと思った。正直になりたいという心もあれば嘘をついてごまかしたいという心もあると思う。私は謝っていないことで「まっ、いいや」ですましていることが未だにある。
V 集団生活 の 向上	登場人物の雅彦さんは自分に任された仕事だからこそ「やらなきゃ」という思いになって戻ったんだと思う。集団生活の向上に向けて、一人一人仕事をしっかり果たしていくことが大切だと思った。雅彦さんのように何か失敗をしてしまった時でも、集団のひとりとして自分の役割にもっと責任を持って、学級のためにも部活のためにもやることが大事だと思う。私も学級だけでなく、委員会や部活動など引き締めてやっていかなければいけないと思った。
VI 人間愛 生きる喜び	生きようと思う心を強く持つことが大事。私は自分の人生に誇りを持っていないけれど、誇りを持ってよう生き方をしていきたい。病気とかではなく他の困難かもしれないけど、権のようにどんな困難も乗り越えて強く生きていきたい。
VII 公正・公平	私は正直人の意見に合わせるということがけっこうある。しかし、この話の主人公は勇敢で「私は好きだよ」と言ったことがすごいと思った。たった一言だけで、言葉を出すのにすごく勇気のいることだと思う。私も人に合わせずに、自分が本当に正しいと思ったことをはっきり伝えられるような人になりたい。
VIII 遵法の精神	ルールをなぜ守らなければいけないのかと言われた時に、前まではルールなんていらなくないと思うし、めんどくさいと思っていた。けど授業でルールを守らないと、その人はいいかもしれないけれど、周りのみんなに迷惑がかかるんだと思った。
IX 信頼・友情	ただ合わせる事が本当の友情ではないと思った。自分の本当の気持ちや意見を言えることが本当の友達だと思う。間違っていることを間違っているということとても勇気があるから、本当に難しいし、簡単にはできないことが多いけどがんばりたい。
X 感謝	私は今まで他の地域で地震が起きたと「大変そうだな」「かわいそうに」と他人事のようにしか考えていなかった。今日の授業で、いざ自分の事として「もしも私も、そうになったら」と考えることができた。私たちがあたりまえに生きていることは実はすごいことなんだと思った。今こうして生きていることがとても幸せなことだと思った。いつも文句ばかり言ってこんなに幸せなんだと気づけなかった自分がちよと恥ずかしくなった。勉強は嫌、給食はおいしくないと言っていたけど勉強できること、食べられることの幸せを感じながら生きていきたい。今の私にとっての一番の幸せは家族がいることです。私は家族が大好きです。
I～Xの 振り返り	道徳の授業で、自分の考えを聞いてもらい、友達も聞きながら話し合うことができて、前より友達との絆が深まったと思いました。自分の考えだけではなく、他の人の考えも聞くことで、心が揺れ動き、いろいろ違う方向にも考えることができてよかったです。真剣な考えを言い合うことのおもしろさを感じました。授業が終わった後でも大震災の時の話が心に残っていました。自分は震災を経験した人はどういう気持ちで生活していたのか、どうやって助け合っていたのかを自分の事のように考えました。そこから、あたりまえのことに感謝するからこそ、あきらめず、みんなで助け合って生活できる強さがあるんだと考えました。道徳の授業で自分に新しいものが増えたと思いました。私もがんばってまいります。

蓄積したワークシートをポートフォリオとした一定の期間ごとの振り返り授業で、生徒AはI～Xの10時間分の授業の振り返りから、自分自身との関わりの中で多面的・多角的に考えるとともに、他者と様々な考えを出し合って追究していくことに価値を見出している。このことから、長期的な学びの軌跡を後から振り返り、全体を眺めることが、新たな気付きにつながっていることが分かる(表8)。「道徳の授業で自分に新しいものが増えた」という言葉からは、一定期間ごとの道徳の振り返り授業を行ったことが新たな転機に結び付くとともに、自分の良さを自覚し、自己肯定感を高めていることが感じられる。このことから、生徒は、1つの授業で記述した自分自身の考えを、一定期間を経た後に全体を通して振り返る「積極的評価の活用」により、自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感することができたと考えられる。このことは、主体的な学びを促進することができるだけでなく、問い続けていくための機会となったと考える。これらの理由から、図2で示した問いを持ち続ける生徒像に迫ることができたと考えられる。

また教員は、個々の生徒が道徳性につながる道徳的な「見方・考え方」をどれくらい働かせていたか、その「見方・考え方」が道徳性の育成に効果があったかどうかを見取っていくことができた。生徒の道徳的な「見方・考え方」を豊かにするために生徒自身の良さを見付け、その成長を伝えていくことで、生徒の意欲を高め、主体的な学びを促進するだけでなく、教員自身にとっても道徳授業の意義を実感し、授業改善をしていくことにつながるため、このような「積極的評価の活用」によって、生徒の道徳的な「見方・考え方」を豊かにするための授業改善をより一層促進するというプラスのスパイラルを生むことが分かった。つまり、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す中で、生徒の学びを見取り、生徒一人一人の良さを認め、

伸ばすことによって、指導と評価の一体化を実現することができた。なお、I～Xの振り返りの生徒の記述は、指導要録記載の際に有効な資料になると考える。

これらの生徒の変容を分析した結果、教員がファシリテーションを工夫して、生徒が問いを持ち続ける授業をしたことで、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成につながる道徳科における「見方・考え方」を基にした目指す生徒像「自己を見つめる生徒」「物事を広い視野から多面的・多角的に考える生徒」「人間としての生き方についての考えを深める生徒」に迫ることができたと考えられる。

5 研究のまとめ

(1) 研究の成果

・「発問の投げ掛け」「発言のコーディネート」「対話が行われる場での思考の見える化」「積極的評価の活用」という教員のファシリテーションの工夫により生徒が問いを持ち続ける学習過程を開発できた。

・問いを持ち続ける学習過程により、「主体的・対話的で深い学び」の実現が図られ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成につながる道徳科における「見方・考え方」を基にした目指す生徒像に迫ることへの効果が見られた。

以上のことから、「主体的・対話的で深い学び」の実現によって、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成につながる道徳的な「見方・考え方」を豊かにするために、ファシリテーションの工夫による問いを持ち続ける授業は有効であることが明らかとなった。

(2) 今後の研究課題

・更に、問いを持ち続ける授業の充実を図ると共に、カリキュラム・マネジメントの視点から各学年、各教科や学校全体における教育の充実に向けた在り方を探っていく。

・学びの主体が生徒である以上、自ら選択して考えていくことを大切にしたい思考の見える化により学びの充実を図る工夫をする。

・よりよく生きようとする道徳性や、1単位時間において道徳的な「見方・考え方」を個々の生徒がどのように働かせたのかを、生徒にとって納得できる方法で示す工夫する。

注

- 1) 中央教育審議会『教育課程企画特別部会論点整理』2015 45 ページ
- 2) 文部科学省『中学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編』2017 2 ページ
- 3) 中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』2016 224 ページ
- 4) 前掲2) 74 ページ
- 5) 前掲3) 49 ページ
- 6) 前掲2) 88 ページ
- 7) 前掲2) 91 ページ
- 8) 前掲3) 221 ページ
- 9) 前掲3) 221 ページ
- 10) O. F. ボルノー 森田孝/大塚恵一訳編『問いへの教育』1988 181 ページ
- 11) 岡部美香・谷村千絵『道徳教育を考える』法律文化社、2012 91 ページ
- 12) 中野民夫『ファシリテーション革命参加型の場づくりの技法』岩波書店 2003 はじめに
- 13) 前掲2) 88 ページ

参考文献

- ・『道徳教育7月号』明治図書 2016
- ・総務省『情報通信白書』2015

問いが膨らむ

考えが深まり広がる

成長や課題を実感する

ねらい

(導入時のアイデア)

【問い】

(教材)

(中心場面)

【中心発問】

生徒A

生徒B

生徒C

共感
 分析
 投影
 批判

共感
 分析
 投影
 批判

共感
 分析
 投影
 批判

学習形態での
思考の見える化

【生徒の言葉での価値の深まり】

終末のアイデア

【今までの自分を振り返る発問】

【評価の観点】

- ① _____に自我関与して、_____について自分の考えをもつ。
- ② 話し合いを通して、_____についての考えに多面的・多角的に気付く。
- ③ 振り返りを通して、_____を視点に自己を見つめたり、思いや新たな問いが生まれたりする。

【ファシリテーターとしての工夫】

発問の投げ掛け

発言のコーディネート



対話が行われる場での思考の見える化

積極的評価の活用

教材名 _____

問い

問いに対する今の考え

<p>話し合いの種 ～自分で考えたことをメモしよう～</p> 	<p>話し合いの芽 ～話し合って気付いたことをメモしよう～</p> 
--	---

→

今日の授業で () について、自分にプラス・ワン!

評価項目		当てはまる ← → 当てはまらない			
		4	3	2	1
1	自分の考えを持ち、授業に積極的に参加できたか。	4	3	2	1
2	友達の考えを聞いて、そうだなと思ったり参考になったりしたものがあったか。	4	3	2	1
3	授業を通して、自分の考えを深めることができたか。	4	3	2	1

1 どの学習が心に残りましたか？

教材名	理由（話の内容・友達の考え方など）

2 道徳の時間に学んだことが生活の中で生かせたと思った出来事や、こんな時に学んだことを生かしていきたいと考えたこと、自分で自分が「変わったな」と思えたことを振り返ろう。

--

3 現時点での自分が大切にしたいことは何ですか？（「私たちの道徳」P2～3の目次を参考に書きましょう。）

内容項目	理由

4 これからの授業で大切にしていきたいと思ったことは何ですか。

--